

～テレマティクス技術を活用した安全運転のサポート～
「見守るクルマの保険（ドラレコ型）」の開発について

MS&ADインシュアランス グループの三井住友海上火災保険株式会社（社長：原 典之）ならびにあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（社長：金杉 恭三）は、ドライブレコーダーを活用して安全運転をサポートする新自動車保険「見守るクルマの保険（ドラレコ型）」の販売を、2019年1月以降始期契約から開始します。

新自動車保険では、株式会社JVCケンウッド（会長執行役員 CEO：辻 孝夫）の通信型ドライブレコーダーおよび最新のテレマティクス技術の活用により、万一事故が発生した場合に、ドライブレコーダーの映像から的確に事故状況を把握し、お客さまに具体的なアドバイスを行うことが可能となります。

また、前方衝突や車線逸脱等の危険な運転を認識してアラートを発信するなど、お客さまの安全運転をサポートします。

MS&ADインシュアランス グループは、今後も商品・サービスの提供を通じて、安心・安全で快適なモビリティ社会の実現に貢献していきます。

1. 新商品・サービスの概要

（1）商品名*

三井住友海上 : 「GK 見守るクルマの保険（ドラレコ型）」

あいおいニッセイ同和損保 : 「タフ・見守るクルマの保険（ドラレコ型）」

*スマートフォン専用アプリと専用車載器で安全運転支援サービスを提供する「GK 見守るクルマの保険」、「タフ・見守るクルマの保険」は、2019年1月以降始期契約より、サービスの提供方式に応じて、「GK 見守るクルマの保険（スマホ型）」、「タフ・見守るクルマの保険（スマホ型）」に名称を変更します。

（2）特長

主なサービスは以下のとおりです。

①ドライブレコーダーを活用した事故対応 **NEW**

万一事故が発生した場合に、衝撃を検知したドライブレコーダーから当社へ録画映像が自動的に送信されます。保険金支払担当者は、送信された録画映像を見ることにより、お客さまが実際に遭った事故の状況を的確に把握し、状況を踏まえた効果的なアドバイスを実施し、迅速な解決を図ります。

②事故対応をサポートする「事故緊急自動通報サービス」 **バージョンアップ**

ドライブレコーダーが大きな衝撃を検知すると、位置情報や衝撃検知時の映像が自動的にコールセンターへ送信され、専任オペレータがドライバーに安否確認の電話連絡を行います。また、ドライブレコーダーの映像から初期対応のアドバイスやレッカー・救急車の手配を行い、事故に遭い不安なお客さまを迅速かつ的確にサポートします。

<「事故緊急自動通報サービス」の流れ>

ドライブレコーダーから送信された画像で、迅速かつ的確な初期対応等を行います。

①ドライブレコーダーが衝撃を検知



②専用安否確認デスクに自動通報 (位置情報や事故画像等を送信)



③ドライブレコーダーの通話機能でオペレーターがお客さまをサポート (初期対応のアドバイス等)



緊急時には、救急車や
レッカー業者を手配!



③安全運転をサポートするアラート **NEW**

ドライブレコーダーの映像から危険な運転を認識した場合に、アラートを発信し、事故を未然に防ぐサポートを行います。

a. 前方衝突アラート

走行中に前方車両と衝突の危険があると判断した場合に、アラートで注意喚起します。



b. 車線逸脱アラート

時速30km以上で車線を逸脱して走行した場合に、アラートで注意喚起します。



④その他のサービス

「GK 見守るクルマの保険 (スマホ型)」、「タフ・見守るクルマの保険 (スマホ型)」で提供している以下のサービス等を、引き続き、新自動車保険でも提供します。

a. 安全運転支援アラート	急加速・急減速、急なハンドル操作、ふらつき等、事故につながりやすい運転状況を検知して、アラートでお知らせします。
(a) 高速道路逆走注意アラート 特許出願中	GPS等を活用し、実際に逆走事故が発生した高速道路のインターチェンジやサービスエリア等で逆走を検知した場合に、逆走の可能性をアラートでお知らせします。
(b) 指定区域外走行アラート 特許出願中	あらかじめ指定する区域外を走行した場合に、未然に事故を防止するため、アラートでお知らせします。
b. 運転診断レポート	毎回・毎月の運転傾向を分析した運転診断レポートを提供します。運転診断レポートは、スマートフォンやパソコンから確認いただけます。
c. 家族等が安全運転を見守るサービス	「高速道路逆走注意アラート」や「指定区域外走行アラート」の発信時刻や発信場所、運転診断レポート、「事故緊急自動通報サービス」の情報をご家族等にもメールで共有します。

2. 開発の背景

昨今、「あおり運転」による重大事故の多発等を契機として、運転状況を録画するドライブレコーダーの需要が高まっています。これは、万一事故が発生した場合に、ドライブレコーダーにより事故状況を「見える化」することで、各種トラブルからドライバーを守れることが要因に挙げられます。

MS&ADインシュアランスグループで実施したアンケート※でも、約67%の方が「ドライブレコーダーを欲しい」と回答し、その理由として、約99%の方が「万一の事故に備えておきたいため」と回答しています。さらに、約67%の方が「ドライブレコーダーを活用して、安全運転をサポートするサービスを利用したい」と回答しており、ドライブレコーダーを活用した商品・サービスへの期待が高まっています。

こうした社会環境を受け、三井住友海上ならびにあいおいニッセイ同和損保は、お客さまにより一層の安心をお届けするため、ドライブレコーダーや最新のテレマティクス技術を活用して安全運転をサポートする、新しい自動車保険を開発しました。

※2018年3月に実施した消費者アンケート。

以上